

**令和 5 年度 第 3 回
富士見市障害者施策推進協議会議事録**

日 時	令和 6 年 3 月 1 9 日 (火)		開会	午前 1 0 時 0 0 分		
			閉会	午前 1 1 時 2 0 分		
場 所	市民福祉活動センターぱれっと 会議室 1・2					
出 席 者	委 員	小菅委員	田嶋委員	朝倉委員	齊藤委員	小川委員
		○	欠	○	欠	○
		木内委員	齊藤委員	国分委員	小寺委員	瀬尾委員
		○	欠	○	欠	○
		高橋委員	長澤委員	橋本委員	鶴澤委員	古川委員
		○	○	欠	○	○
		細野委員	相澤委員			
	○	○				
事 務 局	障がい福祉課 水口課長、谷合副課長、加治係長、三浦係長、谷田主任、桐谷主任、小泉主事					
公 開 ・ 非 公 開	公開 (傍聴者なし)					
議 題	1. 協議会開会 2. あいさつ 3. 議題 (1) 報告事項 ① 権利擁護・コミュニケーション部会 ② 相談支援部会 (2) 協議事項 ① 障がい者差別に関する相談状況について ② あいサポート運動の事業報告について ③ 第 6 次富士見市障がい者支援計画の策定について (パブリックコメントの結果報告) ④ 次期のスケジュールについて 4. その他 ・ 事務局からの報告 5. 閉会					

議事内容

会長	1. 協議会開会 2. 会長挨拶 本日も議題が多くあるが、忌憚のない意見をいただきたい。
部会長	3. 議題 (1) 専門部会報告 ① 権利擁護・コミュニケーション部会 会議を3月8日に実施。防災チラシの作成について協議したので、委員の意見を反映したもので作成する。障がい者差別の相談状況に関して、重大案件がないことが報告され、あいサポート運動の成果とも言えるので、今後もあいサポート運動を通じて普及啓発に努めていく。
部会長	② 相談支援部会 児童チームは、1月30日実施。能登半島地震の状況に鑑み、強度行動障がいの人の避難所については、一般の避難所では難しいのではないかという意見が出された。 精神チームは、2月25日実施。「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム」の協議の場とし、困難事例、地域の課題及びニーズについて、法改正に伴う医療保護入院等の変更について、朝霞保健所の職員から話をきくことができた。 就労チームは、1月17日実施。「切れ目のない支援」として、特別支援学級の生徒の卒業後の進路を確認し、教育相談室と支援の方向性を協議した。また、サポート校などから相談を受けており、障がいの疑いがあると思われるケースについては慎重に対応することや、学校外の支援についても呼びかけた。 児童事業所連絡会は、児童福祉法の改正のことや、能登半島地震の被災状況から各事業所の災害時の対応について、情報共有した。 人材育成チームの懷疑については、体調不良の委員が生じたため中止した。今後は、振り返りや来年度の進め方、地域の事業所の職員同士のつながりと人材育成をしていきたい。
会長	こどもの就学について、特別支援学校高等部の入学試験は

不合格で、普通学校の入学試験に合格した生徒がいることに驚いた。今後は、支援が必要な時に相談を受けられる体制をどう構築するかが課題である。また、グレーゾーンのお子さんは、普通校、サポート校にも在学していると思われるので、どのような支援ができるか考えていきたい。

(2) 協議事項

① 障がい者差別に関する相談状況について

資料3にそって事務局が説明。

視覚障がいのある方から、1件相談があり、当事者と相手側から聞き取りをした。その結果、本人の認識違いであることがわかり、障がい者差別に該当しないと判断し、本人にも報告した。

② あいサポート運動の事業報告について

資料4にそって事務局が説明。

研修について、金融機関が多く受講され、学校は10校が受講した。障害者週間のあいサポートイベントについては、戦争で両眼の視力と両手を失った元教師の方を講師に開催し、好評を得た。また、令和6年4月1日、障害者差別解消法の改正により、民間事業者も合理的配慮の提供が義務化されるので、商工会、ららぽーと富士見の全店舗に啓発チラシを配布し周知した。

委員 あいサポート運動について、私はヘルプマークやヘルプカードの話を通じて子どもたちに福祉教育をしていきたい。

会長 あいサポーター研修受講者も1万人を超え、これからも継続してほしい事業である。

③ 第6期富士見市障がい者支援計画の策定について（パブリックコメントの結果報告）

資料5.7にそって事務局が説明

委員 夕方支援について、利用希望者が多いと考えられるので、複数の事業所で受けてもらえるよう働きかけてほしい。

委員 計画書の文章に、重度障がい者についての定義づけが必要と思うので、注釈を記載すると親切である。

会長 難しいかもしれないが、良い表現があれば提案してほしい。また、重層的支援体制とは、横断的に様々な問題に対し

事務局	<p>支援していくという解釈でよいか</p> <p>様々な問題を、福祉政策課を中心に関係する課が一緒に対応し、相談からもれないようにしていく。</p>
委員	<p>④ 次期のスケジュールについて</p> <p>資料 6 にそって事務局が説明</p> <p>次期計画策定について、今回のように調査が遅くなり、それから取りまとめとなると時期を逸し内容を検討する時間が十分とれなかった印象がある。調査時期を早めてプロセスが丁寧に組めるよう進めてほしい。</p>
会長	<p>余裕をもった形で進められるとよい。</p> <p>4. その他</p>
事務局	<p>① あいサポート運動について、次年度で 10 周年を迎える。</p> <p>先般、メッセージと意見交換を行った。体制は富士見市、三芳町から社会福祉協議会へ業務委託をして協働で進めていたが、それぞれの市町で取組むこととなった。</p> <p>精神保健福祉講座について、今回は 3 月 13 日に予定だったが、講師が体調不良で実施できなかった。</p> <p>災害防災チラシについて、部会で作成したものを配布する。</p>
委員	<p>② 本協議会の委員の任期については最終年であり、公募委員を 4 月 1 日（月）から 4 月 22 日（月）まで募集する。</p> <p>大規模災害時の支援について、予め避難場所がわかれば部会を通じて伝えていきたい。能登半島地震で、1 月中に 2 か所しか福祉避難所が開設できなかった。暖房、水などのライフラインが確保できず、個別配慮が届かなかった。計画のアンケートでも避難行動要支援登録制度について、6 割の人がこの制度を知らなかった。登録者に至っては 4.4% に過ぎない。今後は全体会でも協議の場があってもよいと思う。</p> <p>5. 閉会</p>